第１学年　学級活動（生活安全）　　　　　　　　　　　　　場所　１－３教室

学校外で不審者にあってしまったら

３組　24名　指導者　向井　俊哉

ゲストティーチヤー

武蔵野警察署生活安全課スクールサポーター

１．目標

　校外であやしい人に出あってしまったときの基本的な行動を理解する。

２．題材について

　　１学期に校内にあやしい人が侵入した場合の対応の仕方について学習した。本題材では、自分の身を守るため、学校の下校中における声掛け事案（例）「あなたのお母さんが、事故で大変なんだ。早く病院に行かなくてはいけないので、急いで車に乗って。」などの様々な場面を設定することにより、危険を予測し、どのような行動をとったらよいのかを考えさせることにした。個々の考えを出し合ったり、ロールプレイで実際に体を動かしてみたりすることで、校外であやしい人にあってしまったときの基本的な行動を理解させる。

３．つながりを意識した指導の工夫

警察がもっている情報を活用し、授業に生かすことは、児童に起こり得る事件・事故の未然防止につながると考える。そこで、４月から面識のある武蔵野警察署生活安全課スクールサポーターをゲストティーチャーとして招くことにした。実際にあった事件・事案での誘い文句や手口、状況を場面に設定し、スクールサポーターがあやしい人の役をしてロールプレイをすることで、危険回避に対する臨場感を高め、児童の学習への意欲・関心を高める。

４．本時の展開

（１）ねらい

　　校外であやしい人にあってしまったときの基本的な行動を理解することができる。

（２）展開

|  |  |
| --- | --- |
| 児童の活動(・予想される児童の反応) | ○指導上の留意点（■評価　◆教材等）） |
| 1. 下校の際に知らない人から話しかけられる事例について考え、ワークシートに自分の考えを記入する。   「本宿小って、どうやって行けばいいの。」   * 教えてあげる。 * 知らない人で、怖そうだから逃げる。   きけんだな、あやしいな、とおもったときのこうどうのしかたについてかんがえる。   1. スクールサポーターから実際にあったあやしい人の声掛け事例をいくつか聞き、どうしたらいいのかを考え、自分の考えを発表する。   ＜例＞  「あなたのお母さんが、事故で大変なんだ。早く病院に行かなくてはいけないので、急いで車に乗って。」     * はやく行かないと、お母さんが大変だから行く。 * 知らない人の車なので、怖いから乗らない。   3． 「あやしい人に対するより良い対応の仕方」についての話を聞き、判断の仕方や断り方、逃げ方を理解する。  4． 「事例」についてロールプレイを行い、断り方や逃げ方について演じることで、実践力を高める。  5． 学んだことを振り返る。 | * ワークシートに自分だったらどうするか記入させる。 * 自分なりの考えや理由を書いている。 * 全ての大人があやしい人ではない。困っている人を助けることも大切であることを伝え、どちらの考えでも良いことを認める。 * それぞれの事例について、自分の考えをワークシートに記入させる。 * 自分と友達の考えの共通点や相違点を確認させる。 * あやしい人かどうかの判断の仕方、断り方についてしっかり話を聞かせる。 * スクールサポーターに、ロールプレイに協力していただくことで、臨場感を高める。 * 無理やり連れ去るあやしい人よりも、言葉巧みに声をかけて連れ去る事件のほうが多いことを伝える。 * 安全を守るための地域、社会の活動等を伝える。 * 校外であやしい人に出あってしまった時の基本的な行動を理解している。 |